

# 矢島のビッグデビュー

# 大井五郎満安

## 大井五郎満安が生きた時代

大井五郎満安は今から約四百年以上前の安土桃山時代に活躍した矢島の英雄です。当時の日本は織田信長が安土城を開いたり、豊臣秀吉が全国統一を果たしたりした混乱を極めた時代でした。

この頃、現在の由利本荘市やにかほ市の辺りは、由利十二頭と呼ばれる小領主たちが激しい領地争いを繰り返していました。このうち、矢島地域を取りまとめていたのが大井五郎満安です。



くさし 轡  
馬の口にはませて、手綱（たづな）をつけて馬を操縦する器具です

あしの 鐘

馬に乗るとき足が振り回ると、乗っているときに安定を保つために用います

【平海路絵巻】より

7月号

2023.07.14

[制作]

令和5年度  
矢島高等学校  
2年A組



そもそもなぜ由利十二頭は争いを繰り返していたのでしょうか。私たち矢高生の調査をもとに仮説を立てれば、それぞれの土地の領主は、より豊かな生活を求め、領土を拡大しようとしていたのだと考えられます。

矢島の大井五郎満安は海岸部の領地を求め、仁賀保氏と激しい戦いを繰り返していたのではないのでしょうか。また、仁賀保氏が必要とした矢島にも大きな魅力があったに違いありません。

## 大井五郎満安

矢島地域を取りまとめていた大井五郎満安は、身長が209<sup>cm</sup>もある大男で、約198<sup>cm</sup>の八升栗毛という足の早い優れた馬を操ることができたり、約145<sup>cm</sup>の大太刀を指三本で扱ったりしたという逸話が残されているほど、恵まれた体格と武力を備えた人でした。また、熊のようなひげを生やし、大きな鮭一本や五、六人分の食事をまるまる食べるような食いしん坊で、大酒飲みだったとも言われています。

由利十二頭による争いは三十年以上も続き、この間、矢島地域は、仁賀保氏などに激しく攻め込まれました。大井五郎満安は西馬音内という地域に逃げ、切腹により自らの生涯を閉じたと言われています。

現在大井五郎満安は、矢島町高建寺で安らかに眠っています。そして、矢島の地には、今も大井五郎満安の豪腕な活躍が語り継がれています。

